

**平成 27 年度第 3 回大磯町総合計画審議会
兼 第 2 回大磯町まち・ひと・しごと創生住民会議結果概要**

- 日時 平成 27 年 10 月 28 日（水）午後 1 時 00 分から午後 3 時 00 分
- 場所 本庁舎 4 階第 1 会議室
- 出席者（会長）成田委員（学識経験者）
（委員等）青山委員（教育委員会教育長職務代理）、戸塚委員（農業委員会会長）
重田委員（商工会会長）、杉山委員（社会教育委員議長）
奥野委員（消防団団長）、國久委員（公募町民）、
秋山氏（中南信用金庫）、名久井氏（湘南ジャーナル社）
- 事務局 参事（地域総合戦略担当）、政策課長、政策課担当職員

- 議題（1）大磯町第四次総合計画後期基本計画素案について
（2）大磯町人口ビジョン・総合戦略素案について

○会議記録

1. あいさつ

会長より次のとおりあいさつ

第 2 回大磯町総合計画審議会兼第 1 回大磯町まち・ひと・しごと創生住民会議で委員の皆様からいただいた意見と総務建設常任委員会協議会による町議会議員の意見を踏まえ、総合計画素案の見直しを行った。町長より諮問を受けたので、12 月に開催を予定している答申へ向けて、委員の皆様から意見をいただき、まとめていきたい。御協力をお願いします。

2. 議事

（1）大磯町第四次総合計画後期基本計画素案について

□総合計画と総合戦略の関係性、総合計画後期基本計画素案における前回の審議会から修正した内容について

（資料に基づき事務局より説明を行い、次のとおり意見提案及び質疑応答）

◎鳥プロジェクトについて、英語教育を前回の会議で発言し、今回の資料に盛り込まれている。今後 5 年間に向けて、何を重点的に取り組むかがはっきり表れているので良いのではないか。（委員等）

◎「地域特性」を具体的な言葉に置き換えることは、現在考えているか。（会長）

- ・関係課との調整はまだ出来ていない。町民の方に分かり易い表現に直していきたい。
(事務局)
- ◎部門別計画と重点プロジェクトの整理について、修正したことで分かり易くなった。
ただ、実効性の確保として記載した財政の見通しについては、前回の資料のほうが分かり易い印象を受ける。(委員等)
- ・前はシンプルな内容であった。今回、歳入歳出の見通しとしては、歳出の調整額の欄で示すように、財源不足が生じる旨を記載している。町の財政状況が厳しくなっていることを皆様に知ってもらうとともに、財源不足をいかにして解消するかを説明するべきとの考えから、前回に比べ、文章が長くなった。改めて、説明文を短くする方向で調整したい。(事務局)
- ◎調整額と記載していると、どこからか調整してお金を持ってくる印象を受ける。調整額と記載しなければならないのか。例えば、注釈を入れて、調整額は、この表の中では財源不足を指すなどの説明が無いと、町の財政状況が大変であることが伝わらない。(会長)
- ・注釈を入れているが、分かりづらい用語は見直しさせていただく。(事務局)
- ◎財政については、ある程度変動幅があると思うが、どのくらいか。(会長)
- ・平成28年から平成32年の5年間で想定される歳入と歳出を抜き出し、見通しを立てた。現段階で余裕の財源は見えない。(事務局)
- ◎資料を読んでも理解が難しい。もう少し分かり易さが出ると良い。町民の方が見て理解できるかたちが必要である。(委員等)
- ◎前回の計画から、見易くなっているが、町民の多くが見て分かる水準には達していない。(会長)
- ・中期基本計画では行政用語なども多く使われている。分かりづらいなどの意見から今回の後期基本計画では、分かり易く記述している。しかし、行政用語を用いて説明しないと分かりづらい部分は、ページ毎に用語の解説を設ける。町民に分かり易い冊子となるよう工夫させてもらう。(事務局)
- ◎言葉の使い方はある程度やむを得ない。町民の方に読んでもらう前提であるが、これでは読まないと思う。リーフレットのような物があれば、気軽に手に取ってもらえるのではないか。(委員等)
- ◎冊子は全戸配布するのか。(委員等)
- ・全戸配布はしないが、概要版の部数を多めに作成する。(事務局)
- ◎生活に密集した部分だけでもピックアップすれば良いと思う。(委員等)
- ・計画を策定し、必要な箇所をピックアップして、作成していくとともに、町民の方に見てもらう意識を更に強く持ち、概要版の作成に努めたい。(事務局)
- ◎ニーズという片仮名用語が各所に出ているが、使う必要があるか。(委員等)

◎これは担当課で作成した文言になるのか。(会長)

- ・細かな調整については微調整させていただき、文章に温度差が生じないように考えたい。(事務局)

□答申の方向性について

(資料に基づき事務局より説明を行い、次のとおり意見提案及び質疑応答)

◎どのような答申にするか、私の考えでは別紙の葉山町のような答申では短い。前回の答申よりも、記述したほうが良い。審議会として重要と捉えるポイントに触れたほうが良いと思う。(会長)

◎この審議会まで議論してきたが、全ての部分について細かく議論することはできない。考慮しなければならない点としては、人口減少・少子高齢化ではないか。事務局で案として示した項目に皆様から御意見が無いため、答申の中に入れることで進めたい。(会長)

◎人口減少・少子高齢化は、町にとって非常に大きな課題であり、触れていく必要がある。また、財政の見通しについても、実効性の担保は重要である。委員から御指摘があったように分かり易い説明をする必要性がある。(会長)

◎町長に対して答申することから、町長に理解していただければ良い。(委員等)

◎町民に対して分かり易い財政状況の説明をしていく必要があるとのことか。(会長)

◎答申は、町長に対するものであるから、答申の中で町民に分かり易い表現を用いなくても良いのではないか。行政が答申を受けてどうするかが問題である。財政状況についても、調整額というが人口が減れば町民税も下がる。産業が発展しなければならないが、過去のように大きな企業が来ることは難しい。借金財政であることが目に見えている。社会保障や医療の費用が増えていくことを考えると、ビジョンは良いと思うが、町に落ちる財源を考えなければ答申を出しても実際のところ事業が出来なくなってしまう。(委員等)

◎答申は、財政の部分では、甘い見方をしない財政計画を立てるであるとか、重点プロジェクトについても計画倒れせず実行していくことなど、重点プロジェクトは町民意見等を踏まえて検討してきた内容であるからしっかり実行してほしい。後期基本計画が終了した後も、見通しとしては人口が減少し財政状況も厳しくなるため、町側だけで取り組むということではなく、町民にも町の内情を理解していただき、町と町民が一体となり活気を取り戻していかなければならない。そのような意見を示してほしい。(委員等)

◎後期基本計画の部門別計画において、実行できたかどうか指標として分かるようになっていっているので、進行管理を行っていくことを踏まえ、次の計画に向けて取り組

むかたちが良いと思う。(会長)

◎検証し易いかたちであることは重要である。しっかりと進行管理すべきである。(委員等)

◎答申では、具体的に細かな所まで決める必要性はないのではないか。大枠で出して町へ投げかけるかたちが良いのではないか。(委員等)

◎大きな自治体は、答申を細かく項目だてしている傾向がある。(会長)

◎部門別計画など細かな内容は出さなくて良いのではないか。(委員等)

・事務局として案で示した内容は、前回の中期基本計画を参考にして作成した。今回示した内容で良ければ、委員の皆様からいただいた意見を基に事務局で案を作成し、会長と相談したうえで、委員へお示しさせていただければと考えている。(事務局)

◎次回の審議会で答申をすることになるので、本日出来る限り意見をいただき、事前に答申案を皆様へ示したうえで、次回の会議へとつなげて行きたいと思う。項目としては、事務局より示された5項目でよろしいか。(会長)

◎部門別計画については、これまであまり議論はされていない。(会長)

◎項目は5つ程度で良い。事務局で案を示し、たたき台とすれば良い。(委員等)

・方向性の了解が得られれば、パブリックコメントの結果を待ち、答申の作成に進んでいく。(事務局)

・答申をいただきたいのは、ポイントとなる部分であり、実効性の確保と財源については重要な点であると考えている。内容については、委員の皆様からいただいたキーワードを基に事務局で洗い出し、パブリックコメントを受け、修正を踏まえた中で、案を示し、委員の皆様で議論していただくことが良いと考えている。(事務局)

◎シンプルにするのであれば、3と4の項目を合体させる考えもある。(会長)

◎町で幅を持って政策が取れるような答申のほうが良いと思う。(委員等)

◎これまでの内容を踏まえ検討することで、基本的な考え方としては、このような枠組みで良いということを進める。(会長)

(2) 大磯町人口ビジョン・総合戦略の素案について

(資料に基づき事務局より説明を行い、次のとおり意見提案及び質疑応答)

◎戦略は実態上、総合計画重点プロジェクトと一体で同じ内容となるのか。(会長)

・戦略と重点プロジェクトの事業名称は一致している。戦略のねらいは、国の考えも踏まえ町の戦略を立てており、重点プロジェクトと異なる。(事務局)

◎前回の会議において、国の政策で町の政策が変わってはいけないと話した。総合計画と総合戦略の関係を説明してほしい。(委員等)

・第四次総合計画後期基本計画を進めていく中で、国においても人口減少に歯止めを

かける目的で、人口ビジョンと総合戦略を策定した。国だけでなく、地方自治体でも人口ビジョンと総合戦略を策定することになった。町としては中期基本計画の時から、交流人口の増加と定住人口の安定化を掲げてきた。国の人口ビジョンと総合戦略を策定する動きが丁度重なることから、総合計画と総合戦略は別の内容であるものの、目的とするところが一緒であるため、整合性を図り、二つの計画を策定していくことで、現在二つの計画を一緒に議論していただいている。(事務局)

◎戦略については、具体的な内容が書かれているが、国からメニューが示されれば動くイメージか。(会長)

- ・国の概算要求額しか情報は入っていない。これから国で示されることになるが、パッケージに合うように予測し策定したつもりではあるが、明確になった時点で事業を載せていくことになると思う。事業の中では該当しないものもある可能性はあるが、事業は変えず、出来る限りメニューに合うように修正し載せていきたい。(事務局)

◎全体像としては、重点プロジェクトの事業があるが、その中のいくつかは総合戦略に位置づけるイメージなのか。(会長)

- ・イメージとしては、総合計画＝総合戦略と考えている。国の新型交付金がもらえないから止めてしまうことは考えていない。総合計画に位置づける事業であることから、確実に実行していく努力はしていきたい。(事務局)

◎総合計画と総合戦略が同じであることが共通認識できた。お金との兼ね合いは現実的な問題として、常に意識しなければならない問題である。事業を限定せずに交付金に柔軟に対応できる答申が良いと感じる。(委員等)

◎総合計画と総合戦略が一致しているだけで良いのか。独自色は出さなくて良いのか。(委員等)

- ・重点プロジェクトにおいても独自のニーズを捉えているので、町の独自性は表れてくるかと思う。交流人口の増加と定住人口の安定化で目標が一致しているにも関わらず、別のことを行うほうが違和感を覚える。考えがぶれないように二つの計画を進めていかなければならない。(事務局)
- ・国の総合戦略の柱である「時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」とあるが、これが各自治体で独自の色を持った内容であると考えている。町として推進している健康な暮らし、地域防災を重点プロジェクトと総合戦略に位置づけることで、町として色を出させてもらった。(事務局)

◎総合計画後期基本計画の策定期間に、偶然、総合戦略の時期が重なったとのことであるから一緒に進めるほうが良い。(委員等)

◎人口ビジョンで目標人口を定めているが、根拠は何か。(会長)

- ・町の独自推計と国立社会保障・人口問題研究所の推計を載せているが、町の人口は、

一番厳しい見通しでは今の人口より平成 72 年時点で 3 分の 1 程度減少してしまう。人口が減る見通しの中で、まちづくりを進めるうえでは人口を確保しなければならないが、人口の構造も考えなければならない。国や県の動向も見た中で人口の確保と年齢バランスのとれた人口構造に着目し、独自推計を算出し、そこから町の目標人口を掲げた。(事務局)

3. その他

- ・本日以降の予定としては、パブリックコメントの意見を踏まえ、答申案の作成を進めて行きたい。所管課と調整が出来ていない部分は、答申案と合わせ、事前に委員の皆様へ送付したいと考えている。次回の審議会は 12 月中旬以降の開催を予定しており、答申案を協議し、答申を行う。(事務局)

以上